



自立活動だより

NO. 3

文責

自立活動支援センター

令和3年5月21日発行

5月も半ばを過ぎました。最近の気候は、すがすがしい風が吹き、スポーツに取り組むには絶好の季節です。この時期、本校の幼児児童生徒は、スポーツに積極的に取り組んでいます。幼小学部では、5月22日に運動会が行われます。中学部では、中体連が5月31日に行われます。また、高等部は、5月の初めに高校総体地区予選会が行われました。

これからの時期、気温が上がっていき、湿度が高い梅雨の時期に向かってきます。今年は、全国的に梅雨入りが早まるようです。そのような時期にも、子どもたちには、思う存分スポーツを楽しんでもらいたいものです。一方、補聴器や人工内耳にとっては、汗との戦いとなる過酷な時期となります。最近の補聴器や人工内耳は、生活防水構造となっている機種がほとんどです。しかし、塩分を含む汗は、補聴器や人工内耳にとっては大敵です。汗から大切な補聴器や人工内耳を守り、快適に装用できるようにしましょう。そのためには、次の2点を心がけてください。

- 1 補聴器や人工内耳の汗カバーを着けましょう。
- 2 就寝時には、乾燥ケースに入れましょう。乾燥ケースの乾燥剤が古くなってしまうと乾燥機能が落ちてしまいます。ご確認ください。

汗カバーや乾燥ケースなどは、自立活動支援センターでも購入のお手伝いをしております。希望される保護者の方は、担任までご相談ください。



乾燥ケース



人工内耳・補聴器カバー

言葉を育むヒント3

～言語感覚を磨くこと～

中庭で、小学部低学年の子どもたちがダンゴ虫をたくさん見つけていました。そのダンゴ虫を子どもたちは虫かごに入れて、教室に持ち帰りました。その学級では、そのダンゴ虫を話題に話し合いが始まりました。次のような話し合いです。

○先生：「この虫の名前知ってる？」

○児童：「知ってる、知ってる、ダンゴ虫っていうんだよ。」

○先生：「じゃあ、どうしてダンゴ虫っていう名前なのかな？」

一瞬子どもたちは、きょとんとしていました。そんなことを訊かれるなんて考えてもみなかったようです。話し合いは、続きます。

○先生：『「カブト虫」は知っているよね。』

○児童：「知ってる。知ってる。」

○先生：『「カブト虫」の「カブト」って何か分かる。』

○児童：「あっ知ってるよ。子どもの日に飾るよ。昔の人が、頭にかぶったかっこい帽子。」

○先生「その通り。その「カブト」に「カブト虫」の角が似ているからカブト虫という名前になったんだよ。」

○先生：「じゃあ、ダンゴ虫は、どうかな。」

○児童：「お団子みたいに丸いからダンゴ虫になったんじゃないかな。」

○先生：「その通り、よく気がついたね。すごいね。」



このような話し合いを日常的に行っている子どもたちは、言語感覚がどんどん磨かれていきます。

ことばには、そのことばになった理由が隠されていることが少なくありません。その理由を考える経験を積み重ねていくことで、わからないことばに出会ったときに、そのことばの意味を自ら考えられる子どもへと成長していきます。子どもたちの「言語感覚を磨く」のです。ことばをことばで考えることを、日頃から大切に、子どもたちの言語感覚を磨く係わりをしていきましょう。

